

女と男、もっとわかりあうために

かれんと

No.11

カレント
Currentとは?

時代の流れあるいは
新しい潮流

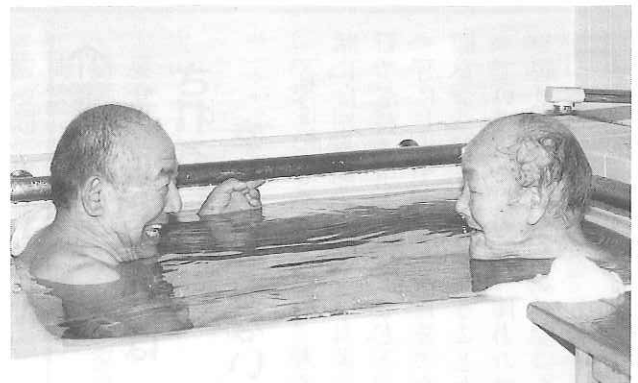


市内デイサービスセンターにて

活かしていますか、在宅介護サービス

安心して老いるために

—— 家族だけでは支えきれない ——



市内デイサービスセンターにて

女性であれ男性であれ、どこでどのように暮らしても、老いは確実に訪れます。

住み慣れた環境で、高齢期を迎えたい。家族とともに暮らしたい。高齢になって、だれかの手助けが必要になれば、なおさら、そう思うのも自然なことかもしれない。

誰もが最後まで自分らしく生きていくためには、介護を家族だけの責任とすることなく、地域や社会の問題として受けとめ、福祉制度や高齢者介護のための施設などを利用していくことも必要です。

今回は、在宅介護支援制度を積極的に利用している人たちの声を聞いてみました。

ありがとう お世話になります

私は一人で二役です

[要介護者] 夫の母 90歳
 [主な介護者] 私（次男の妻）62歳
 [介護状況] 6年前から寝たきり
 [利用サービス] デイサービス
 ショートステイ

私の頭からは、寝ても覚めても、義母のことが離れたことがありません。自分が喉が渴いた時、トイレに行きたい時など、義母も同じだろうかと、必ず、尋ねます。

一緒に面倒みてくれていた夫も3年前に倒れ、2人の世話がのしかかってきました。

兄弟たちと相談して、義母を特別養護老人ホームに入れる手続きまでしましたが、義母が私に面倒みて欲しいと言うので、自宅で見ることができました。

楽しく働いていたパートもやめることになりました。

入浴サービスや、ショートステイは、人に勧められて、3年前から利用しています。

当初、義母は「裸を見られるのは恥ずかしい」と嫌がりましたが、福祉センターの人が、仲間づくりや和やかな雰囲気作りをしてくれ、今では月4回の入浴サービスを楽しみにしております。

ショートステイを利用して、私も仲間と一緒に、四季折々の山歩きを楽しんでいます。ストレス解消することで、在宅介護が続けられますから。

「私は絶対元気でない」「夫より一日でも長く生きたい」などと、よく耳にします。誰もが自分の高齢期をつつがなく暮らせることを願っています。しかし、体力の衰えや病気などで、介護が必要になることもあるでしょう。

今回、在宅介護を受けている高

一番大切なのはやさしさ、でも……

[要介護者] 夫の母 90歳
 [主な介護者] 私（長男の妻）67歳
 [介護状況] 6年前から寝たきり
 [利用サービス] デイサービス、ショートステイ

私の同年代の人の多くは、まだ、介護は家で娘や嫁がするものという意識があります。

私も、親の介護は当たり前と思っただけで、60歳を過ぎてから、体力も衰え、力のいる介護が負担になってきました。

在宅介護は理想ですが、家族だけでは介護は支えきれません。ですから、在宅介護サービスを受けることは、「恥」だとは思いません。

2年前から、デイサービスやショートステイ（短期入所サービス）の制度を利用するようになりました。

「預けられて、おばあちゃん、かわいそう」という世間の声も聞こえてきましたが、サービスを受ける義母は入浴サービスで、頭まで洗ってもらえて、気持ち良さそうですし、ショートステイでは友達もできて、楽しいと言っています。

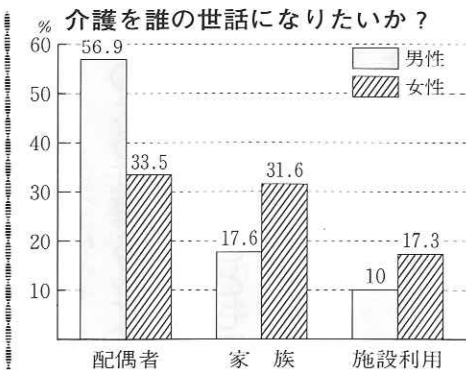
お年寄りに一番大切なものは「やさしさ」です。介護サービスを時折受けることで、介護者もリフレッシュでき、やさしい気持ちで介護が続けられます。

これからも介護サービスを利用し、共倒れにならないよう、在宅介護を続けていきたいと思っています。



デイサービス施設まで、送迎してもらえるので、安心して利用できます。

介護する者が 幸せでなければ される者も 幸せになれない



資料：鹿沼市「豊かな男女共生社会形成のための意識調査」H6

あなたの介護は だれの手で？

妻にみてもらいたい男性は、60%近く、夫にみてもらいたい女性は、その約半分。男女の意識の差はどこからくるものだろうか。

シルバー人材センターに お願いして

【要介護者】 母 92歳
 【主な介護者】 私(娘) 55歳
 【介護状況】 病後体力の衰えのため、日常生活の介添え。
 【利用サービス】 シルバー人材センター

元気を母でしたが、高齢になり、特に病後は、めっきり体力が衰えてしまいました。同居している娘の私は仕事を残して出かけるのが、とても心配でした。

そのような時、シルバー人材センターには、高齢者や病弱な人たちのための派遣事業もあることを、センターを利用したことのある人が教えてくださいました。早速申し込みましたところ、シルバー人材センターの係の人が誠意をもって相談にのってくださいました。派遣されま

した会員の人も明るく健康で、高齢者の気持ちや家族の立場をよく理解され、誠意をもって支援してくださいました。

いろいろお世話になりましたが、主に次のようなことについて支援していただきました。

- ・日中一人でいる母の話し相手になつていただくこと。
- ・昼食を一緒に食べていただくこと。
- ・室内歩行の介添えをしていたこと。
- ・家族への伝言メモを書いていただくこと、など。

このような温かい支援サービス



「また来週あいましょうね」

スを受けることができましたので、母も私も安心して毎日を過ごすことができました。

シルバー人材センターの係の人や、会員の人のご理解とお心づかいに対し、心から感謝しております。

年齢者四人のご家庭を訪問して、共通に感じたことは、要介護者が家族の一員として大切にされていること。そして、介護する人・される人双方が快適に暮らせるよう、ヘルパー・介護機器・施設利用等、人や物のサービスを積極的に取り入れ、共倒れにならないようリフレッシュしながら、介護を継続させていることでした。

より良い在宅介護のためには、次のようなことが大切です。

- ・要介護者の自立を助ける。
- ・男性も日頃から、介護・家事・育児に関わる。
- ・積極的に福祉施設・サービスを利用する。
- ・外部の人が、家に入り、介護の肩代わりをすることに慣れる。
- ・介護者が自分自身の時間を作り心身のリフレッシュを図る。
- ・高齢・少子化がすすみ、高齢者が高齢者を介護している例も、少なくありません。
- ・一方、女性問題の視点からも、家事・育児と同様、介護が女性の肩に多くのしかかっていることが、



必要に応じた 福祉サービスを受けて

【要介護者】 母 99歳
 【主な介護者】 私(娘) 71歳
 【介護状況】 平成8年12月から寝たきり
 【利用サービス】 (ホームヘルパー・以前利用) 訪問看護・特殊寝台 在宅用酸素吸入器

母は家や家族のために働き続け、73歳までは田植えもしていました。98歳になつても、少し手を貸せば家のお風呂に入れるほどでした。

母の体が弱くなつてからは、清潔を心掛け、市のヘルパーさんをお願いしていました。話や歌の相手などもしてくださり、母も喜んでいました。

寝たきりになつたこの頃は、時折、昼夜を取り違えたり、四六時中私の名前を呼び続けることもあります。

現在は、訪問看護ステーションの看護婦さんに、週3回来ていただいています。脈拍・体温

を測り、その日の状態に合わせて、洗髪・爪きり・清拭などを丁寧にしてくれます。

母は、必ず「ありがとう、お世話になります。またきてね。」と言ひ、うれしそうです。

ベッド・在宅用酸素吸入器など、必要に応じて福祉のサービスを利用しながら、在宅介護を続けています。

このような福祉サービスには感謝しています。そして、私も、月2回、妹に介護を頼み、自分の時間を作っていますが、できれば私も母も、もっと地域との関わりがあればいいと思つています。

より良い在宅介護のためには、次のようなことが大切です。

- ・要介護者の自立を助ける。
- ・男性も日頃から、介護・家事・育児に関わる。
- ・積極的に福祉施設・サービスを利用する。
- ・外部の人が、家に入り、介護の肩代わりをすることに慣れる。
- ・介護者が自分自身の時間を作り心身のリフレッシュを図る。
- ・高齢・少子化がすすみ、高齢者が高齢者を介護している例も、少なくありません。
- ・一方、女性問題の視点からも、家事・育児と同様、介護が女性の肩に多くのしかかっていることが、

*アンペイドワークとして問題と なっています。(※一口メモ参照)

男女共同参画社会を実現するため、固定的性別役割分担意識や、社会慣習を見直し、足元から実行していくことが大切ではないでしょうか。

初の女性自治会長

誕生



みなみ町自治会長
荒井令子さん

みなみ町は、世帯数430。文字通り、市の南に位置する町です。この町に今年度、鹿沼市で初めて女性の自治会長が誕生しました。荒井令子さんです。荒井さんにお話をうかがいました。

「みなみ町は、多くの女性が自治会活動に積極的に参加しています。また、新興住宅地のため、新しい考えを受け入れやすく、そんな土壌が女性の自治会長を選んだ理由の一つではないでしょうか。今回新しく副会長になった人も、女性です。」

みなみ町では、今回、地域住民から選ばれた評議員会が会長候補の推薦を行い、総会で自治会長を決定しました。前任の自治会長からも勧められ、また、評議員会でも推薦を受けた荒井さんですが、1人の人が多くの役を引き受けるより、多くの人が分担した方がよいと考え、初めは断ったそうです。しかし、新しい副会長からも熱心に勧められ、女性も責任あるポストにつくことが必要であると考え、引き受けることになりました。

「女性も男性も仕事の面では同じです。女性であることを利点にしようとは考えていません。ただ、地域の人は、親近感を感じられるようで、気さくに話しかけてくださいます。」

以前より、女性の社会参加を大切なことと考え、女性にさまざまな分野に進出してほしいと願っていた荒井さんは、「やろうという気持ちがあれば、性別に関わらず、やることができます。女性も気おくれせず、新しいことに挑戦し、後に続いてほしいと思います。」と、女性の活躍を期待されています。

住民の力が発揮される自治会活動。責任ある立場につく女性がますます増えていって欲しいものです。

意見文・標語募集

男女共同参画社会をめざして、あなたの意見文・標語を募集します。

テーマ 自由

内容 家庭・職場・社会における望ましい女性と男性のあり方や体験を通しての考えなど。

応募資格 市内在住者（年齢は問いません）

規定 400字詰原稿用紙（ワープロも可）5枚程度
 ・最初にテーマを書き、最後（別頁）に住所、氏名、電話番号を書いてください。
 ・標語は1人3点まで。

締切日 10月31日(金)必着

応募先 教育委員会女性青少年課 ☎(63)2232

※応募原稿は審査委員会で審査し、入賞者には賞品を贈ります。

—豊かな男女共同参画社会をめざす—

第13回 地区別懇談会 開催

女性団体連絡協議会が中心となり、自治会の協力を得て、7～8月に12地区で懇談会が開かれ、女性301名、男性218名、計519名の皆さんが参加してくださいました。

母親の再就職後、家庭に起こるさまざまな問題を取り上げたビデオ『母のたびだち』視聴後、参加者がグループに分かれ、「女性の社会参加、男性の家事分担」などについて話し合いました。活発な意見交換を通して、女性も、男性も、仕事・家事・地域活動などに積極的にかかわる大切さを、再認識していただき、有意義な懇談会となりました。



女性団体連絡協議会にグループ加入しませんか

女性団体連絡協議会は「地域の共通課題にとりくみ、明るい町づくりに貢献する」ことを目的に、活動しています。女性も、さまざまな分野への参画が必要となっています。あなたのグループも加入して、活動してみませんか。ご加入を心からお待ちしています。

連絡先 教育委員会女性青少年課女性係 ☎(63)2232

ひとくちメモ



アンペイドワーク（無報酬労働）

アンペイドワークとは、家事・育児・介護など無報酬労働のことを言います。これらの労働は、社会的な評価をされない労働として、価値の低いものと見なされてきました。

この労働を担うのはほとんどが女性であり、それが女性の労働全般への評価ともなり、女性の経済力の弱さとともに女性問題となっています。



介護については、第5号で特集しましたが、反響が多かったので、再度の取り組みとなりました。取材・編集を通じて、明日は我が身の切実さを痛感しました。今回新しい編集員、板橋和子さんを迎え、初めに返り認識を新たにし、一歩前進したように感じました。

皆様のご意見を大切にしながら、ともに『かれんと』を育てていきたいと思えます。お気軽にご意見をお寄せください。